

静岡の空の玄関「富士山静岡空港」が開港しました

去る6月4日、「大交流」「大競争」時代の静岡県の新たな飛躍の基盤となる空の玄関として、富士山静岡空港が開港しました。

富士山静岡空港は、牧之原市と島田市にまたがる緑豊かな丘陵地に位置し、離着陸時に富士山を眺望できるのが大きな特徴で、民間の力を活用して建設、管理され、利用者の利便性を第一とした機能的でコンパクトな施設となっています。

また、マイカー利用者には約2000台収容の無料駐車場が用意されているほか、静岡、島田、掛川、浜松等の各JR駅とのアクセスバスの運行はもちろん、富士山・河口湖など、観光地へのアクセスバスが開設されるなど、各地とのアクセスにも優れています。

この新しい空の玄関は、国内線3路線（新千歳、福岡、那覇）、国際線2路線（ソウル・仁川、上海）の定期便に加え、台湾、香港、マカオ、大連等へのチャーター便も運航され、充実したスタートを切ることができました。

さらに、7月23日には、当空港を拠点とする地元静岡の新しいリージョナル航空会社・フジドリームエアラインズ（FDA）が、小松、熊本、鹿児島の各路線に運航を開始し、座席数100席以下の小型機による都市間輸送を担う、新たな航空ビジネスのモデルとして全国から注目を集めています。

富士山静岡空港の開港により、全国有数の経済基盤を有する静岡県と、国内外の有力な地域・都市とがダイレクトに結ばれることになり、地域間の交流が拡大・活発化し、産業、文化、生活等の様々な分野で新しい価値を生み出すことが期待されます。

富士山静岡空港が、これからの静岡県の発展に欠くことのできない県民共有の財産として大きく羽ばたいていけるよう、県内各層が一体となって、様々な利用促進活動を推進していきます。

